

# 人文研紀要

第40号～第42号(2001年)

◆第40号—2001年(2001年10月発行 A5版243頁)

On Beckett's Trilogy : meditation upon death	Fumiko KITA
「刑罰法」とアイルランド・カトリック教会 —カトリック聖職者法を中心に—	盛 節子
ブレヒトとローザ・ルクセンブルク	石黒 英男
Luther und die Folgen für Hegel : Eine Untersuchung zu dem Verhältnis von Wort und Bild	Hiroshi TOMITA
グリルパルツァー覚え書 —歴史悲劇『オトカル王の幸運と最期』に即して—	阿部 雄一
ビーダーマイヤー期のヴィーンとヴィーン民衆(2)	篠原 敏昭
ドイツロマン派の崇高論	伊藤 秀一
薄明に詩的方位を求めて —世紀末の詩人イエイツ—	小堀 隆司
メディア論と自然科学の境界線 —現代ドイツの現状から—	縄田 雄二

◆第41号—2001年(2001年10月発行 A5版207頁)

JAPON, PAIS DE DIOSES	Oscar Javier Mendoza Garcia
Dramatismo en el <i>Aucto de la degollacion de Sant Juan</i> <i>Baptista del Codice de autos viejos</i>	Hiroko KARIYA
『わがシッドの歌』と『ロドリゴ伝』(上)	福井 千春
13世紀の吟遊詩人コラン・ミュゼの詩にみられる抒情性と社会性 —フランス中世抒情詩の変容(1)—	久保田 勝一
「諺の修辞学」と「諺の神話学」 —クレチアン・ド・トロワを例に—	渡邊 浩司
統合福音書としての後期中世聖書劇 —「裏切りの予告」の場合—	土肥 由美
二つの民族の狭間で —トランシルヴァニアのザクセン人とトランシルヴァニア主義の位相—	伊藤 義明
今、倫理学に何が求められているのか	土橋 茂樹

◆第42号—2001年(2001年10月発行 A5版182頁)

<p>〈老い, 衰えゆく〉人々のもつ主体性の考察 —ボランティアの口述記録を通して—</p>	<p>加藤 裕子</p>
<p>藍玉の獄とモンゴル人 —乃兒不花とその周辺—</p>	<p>川越 泰博</p>
<p>日本江戸時代的蘇軾研究</p>	<p>池澤 滋子</p>
<p>意味論から見た翻訳 —「なつかしい」の英訳をめぐって—</p>	<p>川崎 清</p>
<p>複文研究メモ(6) —単文・複文・連文—</p>	<p>野田 時寛</p>
<p>萩原朔太郎1917年 —ドストエフスキー体験(其の2)—</p>	<p>中川 敏</p>
<p>1930年代日本における中国人留学生の演劇活動</p>	<p>飯塚 容</p>